

## 赤坂アカデミー通信

NO 2

赤坂小コーディネーター 田房

初秋とはいえ、まだ暑さの厳しい日が続いております。皆様いかがお過ごしでしょうか。

2学期が始まり、子供たちの元気な声が帰ってきました。夏休み中に地域や家庭等で様々な知識や経験を得たであろう子供たち。これから日々の生活や授業、行事を通して、赤坂の子供たちの学びを継続・充実させることができるよう、アカデミーで一丸となって取り組みましょう。2学期もよろしくお願いいたします。



## I 第1回アカデミー研究授業記録

授業者：赤坂小学校 安川 由美 主幹教諭

教科・領域：合的な学習の時間「ムヒカ前大統領のメッセージから環境を考える～「消費社会」で生きる～」

◎各グループで話し合われたこと

○主体性グループ

- ・年齢によって発達段階が異なるということを実感できた。
- ・幼稚園では、遊びの中で一人一人が自分の意見をもつことができる耕しを作っている。
- ・今回の5年生は、自分の意見をありのまま発表したり受け入れたりすることができていた。
- ・中学校では、人数が少ないので、役割が多く、一人一人の個性が光っていく。その一方で積極性が減ってしまう生徒もいる。

○論理的思考力グループ

- ・ふせんに意見を書いてまとめていくという方法は、全員が参加しやすい方法であった。
- ・中学校では、意見を言えない生徒もいる。
- ・思考ツール活用の積み重ねが活かされている。
- ・3歳児は、「なぜ、何で」が多いが4、5歳児は、「なぜ、何で」を知りたくなってくる時期である。しかし、小学生、中学生になると「なぜ、何で」を考えようとせず、自分なりの課題をもてないこともある。

○協働的な学びグループ

- ・幼稚園では、遊びの中で自分のしたいことを友達に伝えて、友達の意見も受け入れることをしている。
- ・協働的な学びの中でも個の考えは大切であり、子供同士が問題意識をもって取り組むことに意味がある。
- ・まずは指導者が協働的になる必要がある。

## II 次回に向けて

今回の研究協議会では、各発達段階での指導がどのように行われているかや各園、校が大切にしていることなどを話し合うことができました。人数が少なくグルーピングできたので、一部の方の意見だけではなく、お一人お一人の意見を交流し合うことができた貴重な時間となりました。

指導・講評では、篠崎先生よりアカデミーとしての研究の進め方をお話しいただきました。やはり子供たちによりよい教育をするためには、我々指導者が指導力を磨く必要があります。今後も相互の指導や現状等を交流し合いながらよりよい赤坂アカデミーをつくっていきましょう。

## III 次回の赤坂アカデミー合同研究会

日時：9月23日(金) 14:20~15:10 授業者：北原 延晃 主任教諭 教科：英語科 国際

場所：赤坂中学校2F 英語科教室 協議会：15:20~16:30 (2F 社会科室)